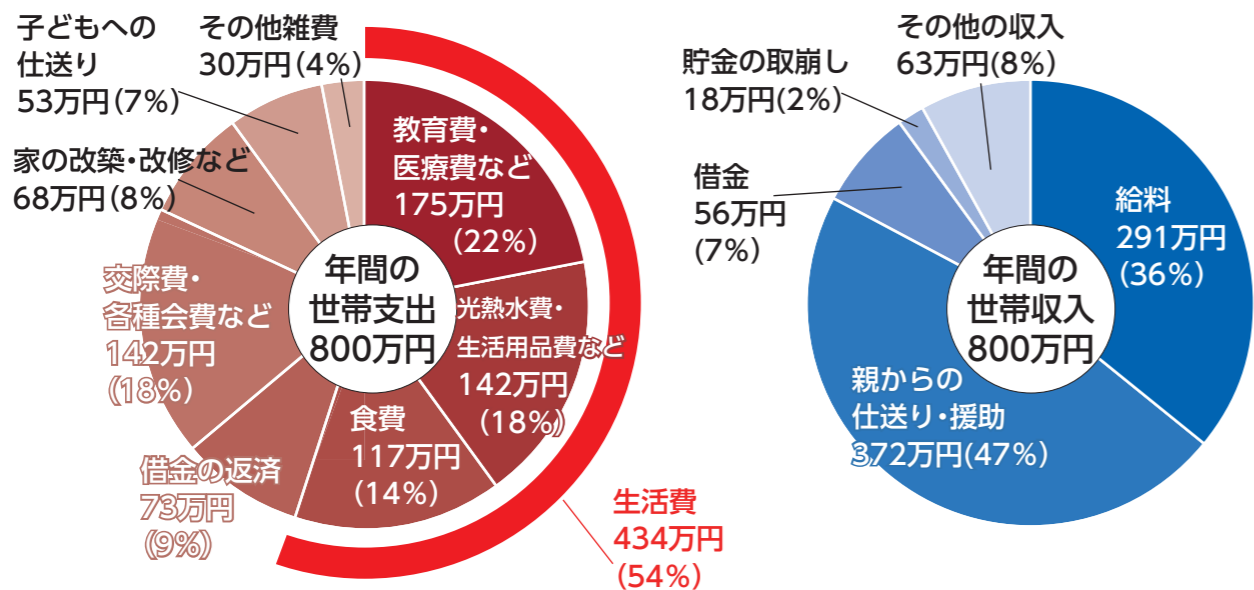


三木市の家計の状況

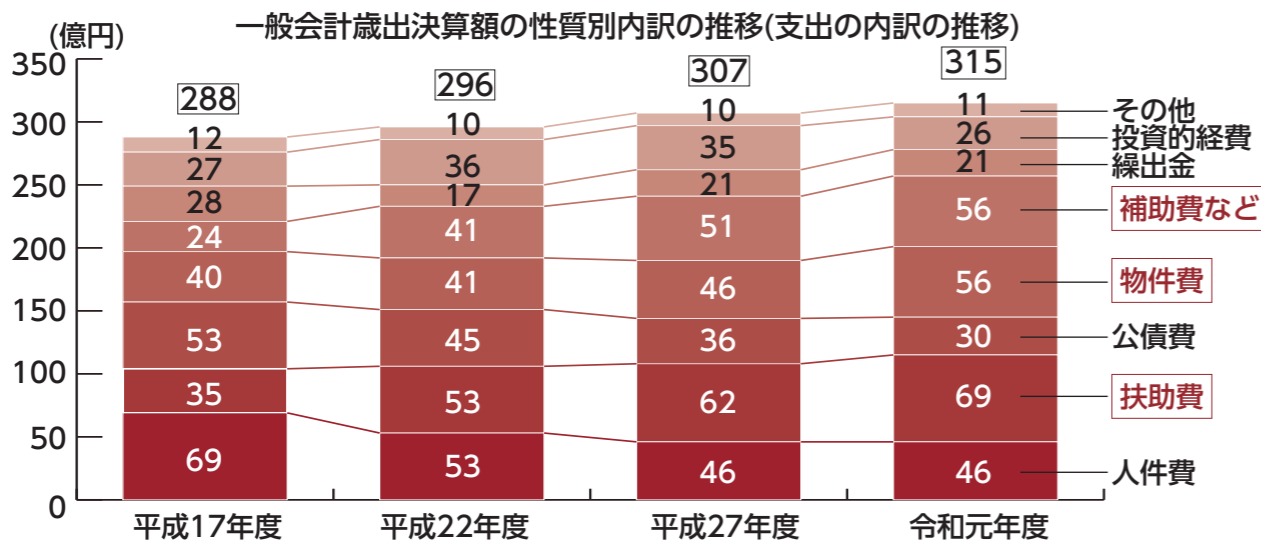
市の令和元年度決算(一般会計)を「年間の世帯収入800万円の家計」に置き換えてみました(令和2年度は新型コロナウイルスの影響があるため、その影響の少ない令和元年度の決算を用いています)。



年間給料が291万円であるにもかかわらず、食費や光熱水費、医療費などの生活費に434万円かかっており、とうてい賄えていません。このため、親からの仕送り・援助(全体の約5割)を当てに(依存)せざるを得ず、それでも足りない分は借金をしたり貯金を取り崩したりして、なんとかやりくりしています。

過去の支出の推移

お金の使い方(市会計)の変化について、過去の支出の推移を見てみましょう。



人件費と公債費が減ってきています。しかし、扶助費や物件費、補助費などに使うお金が増えてきており、支出額全体が増えてきています。これは、保育料の無償化や中学生までの医療費の無償化(扶助費)、アフタースクールの充実や小中学校1人1台タブレット端末の導入などによる教育環境の充実(物件費)、公共交通維持のための各種施策など(補助費など)、時代の変化に対応するためのサービスを充実してきたことが主な要因です。もし、このまま右肩上がりに支出が増え続けていけば持続可能なまちの運営が困難になってきます。

次回は、広報みき10月号(シリーズ②)で収入や貯金の状況、これまでの財政運営を振り返っての現状の分析などをお知らせします。

持続可能な財政基盤の 確立に向けて

～シリーズ① 三木のお財布事情って?～

問 (市)経営管理課 経営管理係

市の財政状況って自分に関係あるの? 市の財政状況は市民の皆さま全員に関係があり、決して他人事ではありません。なぜなら、「三木市の財政」は、市民の皆さま全員を家族とした場合の「我が家の家計」と同じで、生活を支えるためのお金であるからです。今月号では、市民の皆さまに市の財政状況について抵抗感なく一緒に考えていただくため、市役所の会計を家計に例えて説明します。一緒に考えていきましょう。



市税	市債	基金繰入金	使用料、手数料 や財産収入など	市会計 (置換前)
地方交付税、各種交付金や国・県からの補助金など	借入金	貯金の取崩し	その他の収入	家計 (置換後)

●歳入⇨収入
〈言葉の置き換え表〉

人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費など	繰出金	投資的経費	その他経費	市会計 (置換前)
食費	教育費・医療費など	借金の返済	光熱水費・生活用品費・通信費など	交際費・各種会費など	子どもへの仕送り	家の改築・改修など	その他雑費	家計 (置換後)

●歳出⇨支出